京城新報

●溫突迷語録（五）

歪の權太

元來市街衛生の仕事は其範圍の極めて廣汎なるものであるが其第一義として塵埃々剔々に生ずる塵芥汚物又は街上に散亂する瓦礫等を最も迅速に處理するを云ふ處にある、若しも塵芥箱の四邊に汚物の堆積を見る如きであれば該事業の目的は全然沒却されて了つて居る塵芥箱なぞを設けるの必要は無い寧ろ各自に空地又は下水などに投棄せしめた方が却て其目的に協つて居るのである

◎今南部の管内の裏路次を田舍の百姓町に警ると鋼親分署の其れは正に新平民の部落とでも評すべきであろう、點弁なぞは殆ど問題では無い、到る所に黄金の流れや黄金の築山が散在して其れも昨今の寒さに氷河となり氷山となり雨々相映じて頗る壯觀を呈して居ると云ふ始末、そこになると流石に北部の管内は能く手が行き屆いて居る、喫る樣な底き屋根の折り累なつて居る通り拔けや、軒並の亂雜な裏通りまでも常に各戸の掃除がよく行はれて居るし又あるから瀟洒として垢拔けがして居る下水の如きは殆ど形を備へて居るだけに過ぎない粗惡のものであるにも關はらず常に其持前だけを奇麗に浚渫して特に同管内が他の區よりも別個の方針の下に異彩を放つて居るのは路傍の瓦礫が最も迅速に處分せらるゝ事である若し同管内を通過して唯に數個の瓦礫でも拾はんと企てるものがあつたら恐らくそれは失望に歸するであろう、ヨボは確かに不潔屋で無性者でダラシ無しである、而して之れを親切に指導し熱心に奬勵すれば彼等の習慣を打破して改善の氣運に向はしめ得る事も亦確かなる事實である、ヨボは仕方が無いと自己の不熱心さダラシ無しさを忘却して居る衛生屋諸君は大いに努力すべしである

總りに衛生會に一言を呈する、モ少し活動したら宜かろう、アナガチ人夫の賃金の計算にのみ忙殺せられて居るのが其仕事の總でゝもあるまいから。

●安東歳末の勞銀

日來安東市中に於ける勞銀は幾分騰貴の傾向ありて昨年の今月に比して約一割強の騰貴をなしたるが這は結氷と共に下級勞働者の他に移住せし者尠からず且つ市況沈靜の餘波を蒙り從來の商業にては維持難を來したる結果は季節向き商内に一時的轉業したるやの向きあり旁た例年結氷中は内地に歸還者も多くために一般下級勞働者の本年は幾分減少したるは事實なれば從つて需供は相伴はず現に下女のごとき甚しく其雇入れに困難なる等一般を通じて勞銀は騰貴の勢ひにて一方金利の低落と反比例の趨勢を示せりといへり

文苑

◎閻魔廳俳句司より（二）

俳亡者

コツハ會同人諸君

三途の川驛にて十分間停雲此間に一寸例の婆さんを訪問仕候處婆さん非常なる憤慨其理由は閻魔廳が亡者輸送の利を獨斷しソレが爲め三途の川を渡る亡者一切無之幾千萬年來獨專の收入皆無と相成りしのみならず亡者共が拙者を愚弄致し如何に恐ろしげな顏するも屁とも思はぬ始末是れでは拙者の古券に關する重大事件なるを以て屢々閻魔廳に善後策を申出るも地獄魂墮落の極に達したる今日更に耳を傾くる者なく痛嘆の至りに不堪不日閻魔王と膝詰談判を致し亡者は一切往古の渡船主義にせしむるのみならず大々的武斷政策を採り幾分許しありし言論の自由杯は無論嚴禁致さねば已まぬ言もし用ひられずんば此白髮首を切りて娑婆に生れしむるも敢て若しからずと凄じき形相拙者もなぐさめ申言葉もなく殆んど當惑の折柄發雲の號音を汐にソコ〳〵逃れ申候

臘八や三途の川の大吹雪

午後五時地獄驛着閻魔廳差廻の火の車に乘り着府直に大王の前にと引出され申候

外事一束

▲英國● 首相曩に婦人撰擧權問題に斷然反對なる旨を言明せるあるに拘らず

▲外相● 及陸相兩氏の所に撰擧權獲得贊成演說を爲し内閣意見不一致を示す

▲波斯● の爲土國小亞細亞に軍隊の動員を行ひ且つ外相は議會に演說を試み

▲露國● は露及土の波斯に於る利權の存在を承認し兩國波斯の獨立を認むと述

▲不日● 露國政府は波斯横斷鐵道の最終測量に着手すべしと外電は傳へたり

▲佛英● 露は淸國事變に毫も交涉を試むるの意志なしと露外相巴里に言明す

▲埃及● よりトリポリに軍需品の密輸あり將軍キッチナー之れを嚴禁せりと

▲集會● の歸途英藏相凶漢に遇ひ眼瞼及唇に打撲傷を受けしも凶漢は捕縛さる

▲獨逸● 帝國の機關紙摩洛哥事件に關する佛外相の陳述は事實に反する多し

▲外相● の陳述に批評を加へんか佛國下院議事に大影響あらんと云ふ守沈默

新年和歌募集

勅題「松上鶴」

選者　丸皐館去留

一、一人にて何首にても宜敷、用紙用箋は御隨意の事、但投詠者は住所氏名御明記の事

一、締切期限來る十二月二十五日

一、發表は四十五年一月元旦の本紙上を以てす

右は例年の通り勅題和歌募集致候に付同好の御方は奮つて御投詠あらんことを

京城新報編輯局



梁川庄八

第六十三回　小金井蘆洲演

そこで早速現場に出張して、檢視に及んで見ると、豫て詮議中の賊でござりますから、詰り切得になつたのみならず、才助は神妙の計ひ奇特の至りなりとて、御褒詞もあり又丸屋傳左衛門儀は別に差構へないと云ふので、彼是れ日數七日ばかりの中に埒も明きて歸れることになつたものですから、傳左衛門は是れぞ身延山の御利益にて、大難を小難に逃れた次第である、就ては自分はどうしても、此際御山に參詣せねばならぬと厚く才助に禮を述べ且つ 傳『承はれば貴方様も甲府へ御出に相成る由、就ては何卒甲府まで御同道を願ひたい、才『此先もう間違ひもなからうけれども併し私も何うせ甲府まで行くのであるから同道致しませう』とて八王子を出立して遂に甲府の手前の、勝沼と云ふ宿まで參りました、丸屋傳左衛門主従は勝沼の旅人宿の、太田屋吉左衛門方に一泊しました、是れは豫て丸屋の懇意な旅人宿で御座ります、そこで丸屋は此度の災難の次第を委しく主人に物語り、且つ膏藥屋の才助さんとお別れするに附ては、十分御馳走をしたいから、其所で仕度をして與れと頼む、吉左衛門は大事な得意場の旦那の云ふことですから、殊の外料理の獻立を立派にして馳走を致しまする 丸『エー仙臺の膏藥屋さん、今晩當家にてお別れを致しますが、併し若し貴方が江戸の手前宅へお出になりました、其時は又更めて御禮を致します、旅先の事で甚だ輕少でござりますが、身延山へ奉納金の中二百兩だけ貴方に差上げます』と云つて出した其金は鑄替金でござります、只今で云ふ慶長小判、此小判は慶長元年に鑄替になつたので、夫れを二百兩『輕少ではあるが御禮に』と云て出しました、此時齊藤外記事才助は 才『是れは私の受くべきものでない、其場に差掛つて人の難儀を救ふのは、之れ人情の然らしむる所、相互の務と云ても宜しい位のものである、就ては前方の難儀を救つた、御禮の言葉を受けませうが、斯様な金錢を受ける道理はない』と傳左衛門に返しまする 丸『それは御尤も此金は甚だ輕少でござりますが、何れ江戸の店にお入來になれば、更めてお禮を申します、旅先の事故眞の御禮の御手附として差上げたうござります』才『これは怪しからぬ此金が少ないから拙者が不平を懷ひては貰はんと云ふやうな、思惑を抱かれては甚だ迷惑仕る、某は何も金の多少を兎や角と申すやうな、卑怯な人間ではござらぬ、不義にして富み、且つ貴きは浮べる雲の如しと云ふじやないか失禮ながらお前も商人、私も商人、只商賣に大小の區別が有る迄ぢや、それを禮金が少ないから、受取らぬと云ふやうに思ひ誤られては、私の一分が立たん、其許は只金錢の多少を知つて、禮を云ふことを知りなさらぬ人だ』と顏の色を變へて怒りました、丸屋も始めて才助の心中を察し 丸『誠に飛だ事を申上げて相濟みません、失禮の段平に御容赦下さるやう』と詫入て居る、宿屋の主人も見兼て仲裁に入り 主『エー段々膏藥屋さんの御立腹の廉は私も大きに感服致しました、併し丸屋の御主人が折角お禮にと云ふて、差出した金子を御受納になりませんで、此儘お返しになると、何となく奥齒に物がはさまつた様に思はれます、不義な金子であるとか、貰ふべき筋合がないとか被仰るが、併し大枚な金錢物品を請取らるゝ所を、お前様がお救ひなすつたのでございます、就ては此二百兩の中百兩丸屋さんに返して百兩だけ御受納下さると誠に双方滑かに此處の所が收まろうかと思ひます、如何でござりませう何うか爾う云ふことになすつて下さいませぬか』と仲裁しました 才『折角の思召夫れも手前が受納しないと云へば何か外に望でもあるやうな疑念を蒙るので如何はしい、夫れおや此百兩だけお貰い申して置きませう、併し之を貰のも甚だ不本意であるが、折角の口入に任せ戴かう』と不性不量に其金を請取升た、宿やの主人は腹の中で 主『あゝ膏藥屋は律義一方の人だ、あの出來事から是の二百兩の金は御同様、本來ならば千二千の金を強求せられても嫌とは云れぬ道理だ、夫を此方からお禮にと云て差出しても請取んで潔白を表はすと云ふのは、如何にも末頼母敷い人物だ』と頻に感心し又丸屋の主人も 丸『旅商人に似合はぬ潔白者よ』と感心しつゝ、夜更るまで獻つ酬へつ飲み明しました、夫れから翌朝一同連立て、甲府へ赴いたが、丸屋の主人は途中で才助に別れを告げて身延を指して行きました。



人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

仁川支局

東京支局

東京電報

▲**官革媾和將來** 官革媾和開始に對し某當局者は曰く今や北京政府は屢々外債を企圖して成らず今回愛國公債を募集せんとするも之に應ずるは直隷山東三省位に過ぎざるべく豫定の金額に達するや否は疑問なり翻て革命側の狀態を見るに諸方より寄贈し來れる金側合に多額に達し尙戰爭を繼續するの財力あり而して革軍側提出の講和條件は滿りなく官軍の容るゝ所とならざらん此の間調停者の盡力に待つ事多しと雖も日英兩國は現今の處談判開始につき斡旋したるのみにて調停の權力を用ひる場合に非ず而して一方武漢山西湖南方面の兩軍は休戰を利用し却つて戰備を整へつゝあるを以て事局の前途は今のところ混沌として知るべからず云々

▲**奧總長退職と後任** 奧大將は元帥の稱號を賜り服役停年滿了せると健康宜しからざるとにより明春參謀總長の職を辭すべく其の後任としては現參謀次長福島中將たるべしとの說あり

上海電報

▲**革軍突擊計畫** 革軍の軍艦十一隻は石炭彈丸を滿載して揚運附近に碇泊し居れるが若し媾和談判破裂せんか一擧漢陽漢口に向け官軍の背後を突かんとの計畫なりと

▲**湖北兵革命軍に投ず** 湖北兵全部は革命軍に投じ四川省全部を確實に占領し四川總督は僅に身を以て遁れたり

▲**媾和不成立に終る** 其筋着公報によれば二十日の媾和談判に於て革命軍は共和制を頑强に主張せし爲め媾和不成立に歸せり尙本月中は休戰を持續すべし而して長江を界とし二國分立に終るべしと云ふ

▲**袁世凱時局觀** 袁世凱曰く革命軍は今や其熱度高潮に達し余の主張たる君主立憲に耳を傾けざるが如きも暫時の後共和政体の行はれざるを觀取し余の主張に同意し來るや疑なし

雜報

●**治道及港灣費繰延** 本年度の事業公債千二百餘萬圓を以て支辨すべき治道工事は五ヶ年繼續二百萬圓なるが本年度は重もに各方面の測量に從事し實際の土工は今日迄に八七十萬圓を費したる由にて豫定工事の約六分通りを竣工し殘部は四十五年度に繰延をなすこと、し一方港灣工事八百萬圓の繼續事業も是亦六分通りを竣成し治道工事と共に明年度へ繰延を爲す筈なりと

●**間島の保安會** 間島保安會の組織に就ては其後道臺より渾春其他管下の主なるものと內協議の上去る十日總會を局子街に開き會長に道臺を副會長に巡防隊統領外四名を參議總長に延吉庭檢事を推撰し引續き施行細則の協議中なるも一般に平穩にして官民の注意を惹く事少なく單に主林の振り合ひに倣ひ之れを組織せるのなりと

●**織物移入の獎勵** 淸國動亂の結果從來淸國より朝鮮に輸入せし絹織物輸入杜絕したるを機會とし朝鮮向きの織物を製して移入せば可ならんとて當局者にては夫々調査する處あり其の結果農商務省に報告して當業者に移牒方依賴したるが農商務省にては此程各當業者に通知したる由なるが京都の織物業者よりも此際朝鮮に於ける需要織物の詳細等調查方依賴し來りたるを以て農商工部商工課にては各種見本を取揃へ京都府に迴付したり

●**鑛業權所有者の廢業** 朝鮮に於て鑛業權を有する者は多數なるも實際に之れを經營する實業家は洵に微々たる有樣にして唯た其の權利を賣却し一攫千金を夢想する者多ければ鑛區稅の納入期に際して廢業屆を提出する者頻々たるは每年の例なるが本年は殊に其數多しと

●**殖林事業の成績** 國費地方費及恩賜金を以て經營したる朝鮮全道の殖林事業に關し最近の調査によれば國費を以て經營したるもの京畿道に於て殖林面積九十六町歩余殖栽本數四十二萬三千九百八十七本其他各道を通じ下付苗木總計四百三十五萬二千六百四十本苗圃事業としては播種二百三十三石二斗八升柳條數百三十三萬六千九百四十三本床替苗數九百十四萬千八百三十九本あり地方費にては殖林五町歩一萬五千三百本下付苗木三十一萬四千本苗圃は播種五千三百五十九萬八斗五升柳條數七萬八千本床替苗數十一萬七千七百七本にして恩賜金の一事業としては全羅南道及平安南北の三道のみにて殖栽なく下付苗木は十六萬三千九百本苗圃は播種二千七百三十二石一升柳條五萬四千五百二十五本床替五千四十本なりと云ふ

●**本年度の徵稅成績** 朝鮮全道本年度徵稅の濟定額は七百六十萬圓にして本月十五日現在に於て其の收入額は六百萬圓に達せるが今日迄の間に於ては未だ滯納處分を執行せし所なく又强徵の批難も受けず順調に納入を了したる由にて其の重なる原因は小作納稅を止め可成地主納稅に改めたること、納入告知書を各納入に交付せし爲め規定外に徵收せらるゝことの明かとなりたること昨年末に於て舊未納稅の免除其他を整理せし爲め本年の納稅を前年來の未納に繰上げらるゝ如き無きに至りたること等なりといふ

●**總督の縣洞視察** 昨報の如く寺內總督の一行は下關より光濟丸にて二十一日釜山に入港港灣に於ける工事狀況を視察したる上出迎の一行と共に縣洞軍港地を經て馬山港に到り二十二日朝馬山驛發通路歸京の途に就きたりと

●**定例長官會議開會** 二十二日午前十時より總督府會議室に於て定例長官會議を開き山縣總監、倉富、石塚、俵、宇佐美、菊池の各長官、鈴木、岡本の長官代理等出席し政務に關し協議し十一時半散會したり

●**平北道金鑛の狀況** 平安北道中に於ける重もなる金鑛は朔州新安洞所在の約二十七萬餘坪の金鑛を第一とし次は昌城郡の東倉佛人サルタル氏の經營に屬するもの次は雲山金鑛次は延坪の英人ホルロース氏の所屬六十所の分とす而して目下古川、淺野の兩家より出願中に係る龜城郡內の西北六里に當る各所の金鑛も亦有望なるが其他小部分に亘る各鑛區は數ヶ所あるも未だ認可を得ざるもの多しといふ

●**府尹郡守會議開會** 京畿道にては來年一月各府尹郡守を道廳に召集し會議を開く筈にて目下各課とも諮問案の作製中なりと

●**個人屠牛場の反對** 既報の如く當民團にては過般の民會に於て官營屠牛場を民團經營と爲す事と決議し既に許可申請中なるが之に付き個人經營者は民團より屠牛稅を徵收せらるゝ以上到底民團經營との競爭は不可能にて結局營業出來ざるに至るべしとて反對の氣勢高く寄々協議中にて不日其筋に向つて請願する由なり

●**黃金町通擴張工事** 黃金町通り道路擴築に付南大門通三丁目より永樂町三丁目間の土地買收は既に其七分を了したるが年內には全部終了の見込なりと而して永樂町三丁目以東は大体に於て家屋の移轉も終りたれば天候の如何に拘らず來春早々工事に着手すべしと

●**南鮮地方の炭暴騰** 南鮮地方にては近時薪炭價額暴騰し昨今木炭七十八錢乃至八十錢薪三十五錢乃至四十錢を唱へ尙昂騰の模樣なるが此れが主なる原因は主產地たる永同附近が湖南線開通と共に同方面に新に販路を求めたると一は鮮內各地共人口の增加に依るものにして大邱の如き一日俄に二百五十俵を消費しつゝあるの狀態なりと

●**東拓重役社宅建築** 東洋拓殖會社重役の舍宅は愈々明春四月より起工する事に決定したるが總裁の社宅は永樂町元一進會の近隣なる趙義淵の舊宅跡に約七萬五千圓を投ずべく又岩佐理事の社宅は旭町一丁目技藝學校跡なりと云ふ而して其他の重役の舍宅は未だ宅地決定せずとの事なり

●**仁川會議所の總會** 仁川商業會議所にては二十四日午後二時より役員會を開き四十四年度收支決算報告其他二三件協議の上廿五日更に臨時總會を開き商業部、工業部、理財部、運輸交通部等の各部員の撰擧を行ふ由

●**度支部長官の消息** 寺內總督に隨伴して大阪に出張せし荒井度支部長官は廿一日東京に歸着したるが多分東京にて越年の上議會に政府委員として出席すべしといふ

●**市原鮮銀總裁歸京** 東上中なりし市原朝鮮銀行總裁は二十二日午後八時十分南大門驛着歸京せし筈

●**歲末の郵便貯金** 通信管理局に於ける本月二十日現在郵便貯金額は總計三百九十三萬四千四百二十四圓六十六錢六厘にして此の人員十八萬〇四百六十一人中內地人十一萬五千六百三十三人金額三百六十萬五百四十圓十九錢朝鮮人金額三十三萬三千八百八十四圓四十七錢六厘人員六萬四千八百二十八人なるが之を四十三年末現在貯金總額三百二十萬六千四百六十四圓九十三錢人員十三萬八千九百八十六人內內地人三百一萬六千四百二十圓十五錢五厘人員十萬四千〇七十三人鮮人十九萬〇四十四圓五十三錢八厘人員三萬四千九百十三人に比するに金額に於て七十二萬七千九百五十九圓七十三錢六厘人員に於て四萬二千五百七十五人を增加したりと

●**新義州の貿易狀況** 十一月中に於ける新義州港の貿易狀態を聞くに移輸出貨物は主として大豆牛皮生牛木材の減少により前月より約六萬圓の減退を來し卽ち八萬六千七百九十四圓なるが之れを前年の同期に比すれば約四萬圓の增加を示したりといふ又移輸入貨物は季節物の仕入は前月に於て一段落を告げたること、て前月に比し三萬四千餘圓の減退を示したり而して輸入貿易に於て二萬八千圓の大減少を示したるにも拘はらず移入貿易は僅かに六千圓の減退に止まりしは滿鮮終航間際のこと、て結氷見越品の入荷ありしに依るものなるが要するに同月の貿易は之れを昨年の同期に比すれば實に二倍に達するの盛況を示せりと

●**郵便受取所の開始** 通信管理局にては四十五年一月一日より黃海道平山郡寶山面南川に南川郵便所、黃海道長淵郡海安面助泥洞に夢金浦郵便所を設置し同日より事務を開始すべしと

●**咸興小學新築落成** 咸興日本人會經營の小學校從來の建築物は極めて狹隘にして生徒の全員を收容する能はず己を得ず同地居留民一般の寄附により平家建二千坪の校舍を新築し已に移轉を了したりと

取引所設立贊否意見（五）

▲**某商業會議所議員** 曰く設立發起人の一人としての意見を述れば取引所が必要か不必要なるものかといふが如きは既に問題とはならぬ唯京城に於て取引所を設置することが尙早か否かといふに歸着する世間では唯だ取引所なるものに伴ふ一種の弊害のみを認めて其の尙早を唱ふる人もあるが實に愚の極で警察權の完全に行はるゝこと內地以上の京城に於て取引所が設立されたりとて普通夫れに伴ふ弊害なるかの如くに思惟せらるゝ各種弊害の如き毫末も司法上から之れを懸念する譯はない即ち此等各種弊害や未然に於て警察力を以て防止し得る筈であるから斯る懸念よりして取引所設立の尙早を唱ふるは恰も警察權の無能力を嘲笑するが如きものである又た內地に於ても人口五萬以上の地にして取引所を有する都會は各完全に取引所を活動せしめてをる然るに同じく日本人のそれ以上に集合しつゝある京城に而已之れが設立の尙早を唱ひ得らるゝ筈がない更に朝鮮人射倖心の煽動等或種の人々に依つて朝鮮人側に對して抱かるゝ懸念の如きも是れ亦警察權に俟つて充分取締をなし得る次第である扨て又た今日京城の商業上に於ける地位を考ふるに彼の米穀の如きは當然其の集散地となり得るの地位にありながら取引所存せざるが爲めに集散地たり得ざる觀あり尙ほ京城に取引所設立さるゝとすれば東京大阪等の取引所所在地の人々にして之れあるが爲めに生活上幾多の便益を受けつゝあるが幾萬なるかを思へば京城も亦如何に多くの繁榮を之れに依つて得るに至るかを察し得らるゝ譯である大体から觀て朝鮮は其の商工業の各般に渉り今日の如き狀態を以てしては到底其の發達を望み難い即ち今日以上に內地人を多く移住せしめ以て商工業の進步を計らねばならぬ之れに就ては前田翁の意見には同感で斯く多くの內地人の移住を誘致するには是非とも彼の殺生禁斷の地域に多くの鳥獸が群集するが如く朝鮮をして內地以上に各種實業を活潑に行ひ得る如うに多少寬大なる餘地あらしめねばならぬので這回の取引所設立の如き亦此意味から見ても內地で許可されてある以上是非其の設立の許可を望みたいのである。

▲**足立十八銀行支配人** 曰く京城取引所設立に關しては尙早論者も多い如うだが其の時期早し杯云はゞ何時如何なる時機に至れば以て其の設立を適當と認むるか又た株式と取引するとして當地在株の僅少なる故を以て取引所無用を唱ふるものあるが如くなるも是れ亦一笑にだに附するに値せざる議論で當地の取引所なるの故を以て其の取引株は必ず當地在株に限られざるべからずとの理由はない又た米穀に就いて言へば正米取引とせば尙早さは以ての外で當地に取引所の設置は是非共必要なるものである從來此種取引所の設置なき爲め公定相場なく二一の輩に米價を左右せられ之れが賣買者共に不利を蒙つた事例は少くない要するに取引所の如き其利害共に多かるべきは勢ひ覺るべからざるもので其の使用如何に依つては鈍刀ともなり又た利刀ともなること正宗の銘刀の如くであるから只其の設立者の意志及び從業者の如何に依つては之れが設立は極めて必要なることである。

●**煙草試作狀況（二）** 太田

▲**摘葉後の調査** を比較するに朝鮮種中蝶草の幹丈三尺六寸九分を以て最とするも日本種は更らに長じて水府葉の三尺九寸八分を始め秦野葉出水葉共に四尺を越ぎ松川葉に至りては僅に四尺三寸に達せり米國種に至りては三尺に達するものなし然れども其幹周は米國種最好く一樣に肥太し日本種も亦た遜色なく朝鮮種は稍劣れるを見る又其の葉數は朝鮮種中蝶草、龍仁葉、苦草等の如き米國種と其數を等くし十五六枚を有するものありと雖も僅かに七八枚を附する劣等なるもの少なからず獨り▲日本種は其幹丈の最長と共に達磨葉の十六枚、松川葉の十九枚水府葉の二十枚秦野葉の二十一枚出水葉の二十二枚を出せるを見る然れども日本種は一樣に概ね葉質柔薄なり一般の生育狀態は朝鮮種依然不同なりとす更に本葉收穫前の比較を爲すに幹丈、幹周、葉數、葉質、一般生育狀態に異狀の差を認めざるも最大葉の比較に於て米國種は他種に比して概ね狹長に葉長一尺九寸に垂んとする『ベスター』葉あるも其幅員九寸一分を出でざるに日本種朝鮮種は葉長の割合に幅度の廣きものあり例へば朝鮮種成川葉の葉長一尺六寸二分、幅員一尺一寸二分日本種秦野葉の葉長一尺四寸九分幅員一尺七分の存するが如し

▲**收穫期節の比較** に就ては日本種最も晚く朝鮮種最も早く即ち日本種は其の收穫期に入りてより終了點の日子二十二日より三十七日間を要し米國種は稍早く十八日より二十四日を要し朝鮮種は十七日より二十一日を以て終る而して移植より收穫迄の日子は米國種最も晚く朝鮮種最も早し

●**特科新兵の龍山着** 去る十一日仙臺を發し靑森を經て當地に向ひたる本年十二月一日入營の特科新兵百餘名二十日龍山に着したり

●**太田の電氣會社點燈** 太田電氣會社は本年六月以降頻りに工を急ぎつゝありしが昨今を以て竣成し器械の試運轉を行ひ二十五日より全體に點燈する筈

●**南浦水產會社配當** 鎭南浦水產株式會社にては創立以來無配當にて經過し來りたるが今期に至り千五百圓の配當を見るに至りたりと

●**卒業式時間の變更** 既報二十三日午前卒業式擧行の筈なりし工業傳習所は都合により同日午後一時より擧行の事に變更したりと

●**村田技師の歡迎會** 歐米より歸朝したる村田技師の歡迎會は廿三日午後五時より花月に於て開會の筈なるが發起人は各部長官東拓鮮銀の理事諸氏にして官民の重もなるもの出席すべしと云ふ

●**東洋協會名刺交換** 東洋協會專門學校同窓會朝鮮支部は一月二日午前十時同校に於て新年名刺交換會を催すべしと

●**池田長官の歸任期** 東上中なる池田通信局長官は二三日中に歸任すべしと

●**村井分隊長の巡視** 第一分隊長村井大尉は廿二日より約一週間の豫定を以て管內を巡視の爲め出張せり

●**柴參謀長の出迎へ** 軍參謀長柴勝三郎氏は二十一日夜十時副官を隨ひ寺內總督出迎の爲め釜山及馬山に出張せり

●**山根囑託東上** 既報總督府囑託山根正次氏は議會へ出席の爲二十二日午前九時南大門驛發東上したり

●**白山憲兵中佐の赴任** 咸鏡北道警務部長より岡山縣憲兵分隊長に轉じたる白山憲兵中佐は二十一日入京したるが二十二日夜の南行列車にて赴任する由

●**橫山議氏の出發** 新任平壤民團助役の同氏は二十三日朝出發赴任す

●**野中憲兵中尉歸任** 過般來晋州方面へ出張中の憲兵司令部附野中中尉は二十一日朝歸任せり

公人私人

▲ヴイカ－テス（英人鑛業家）二十一日入京山本へ投宿
▲佐久間賢次郎（鑛山技師）二十一日成獄へ出發
▲阿部安積（藤田組技師）同釜山へ出發
▲小松良（釜山電氣會社庶務課長）同上

▲**京城手形交換高**▼
十二月廿二日　一七四、八九七、七九〇　六二八

▲**治外法權**▼ 南淸の長江一帶に日本商品のボイコットが起つたのは日本政府の調停方針が北京側に有利なるが如く、革軍側に因つて想はれて居るのが源因だソウだ▲マサカに中世紀の人間ではあるまいし、我元老輩の頭腦が幾ら古いからとて神權說を擔いで隣國に共和政府の出現するのをブッコワソウなどの馬鹿な思立ちはすまいが最も當にならぬは金屏風と元老の頭腦で、一枚剝げば中は反古紙が通例だから▲此時此際國民黨が對淸宣言書を發表した、立言堂々全淸人をして我國民の對革命意向を知らしむるに足る▲宣言書中に曰く、抑も一國の政体は、其國情民心の歸向に定むるものにして固より他國の得て容喙すべき限りにあらず▲萬一誤つて容喙の背に干犯せんか之れ十八世紀の末造に於ける佛國の內亂に對する神權保持論の再現なり、東洋の大亂は之より將さに增大し長すべし▲且隣國四億の民心は今や將さに革新に向ひ其生活の狀態も亦將さに一變し來らんとす、此秋に方り其無限の需要に應ずるものは主として我國ならざるべからず、此際政府の政策にして萬一眼前の溺纏に倡へ、彼國多數の民心を失ふ如きことあらば、其帝國の將來に挽回し易からざる殃憂を貽すべし云々▲大阪朝日の財政通本田雪堂の曰く言論の自由なき朝鮮にては、或新聞（本紙を指す）が朝鮮銀行の運命に關して、批評を試みたる廉に依り發行停止の厄にかゝりたるも母國の同業者は幸ひにして批評の自由を有し候と▲亦た曰く朝鮮にては如何はしき兌換券の增發を重ね、其の經濟界を攪亂する害毒鮮少ならざるべく候と▲我京城に於ける官有財產中土地は三百〇六十萬坪にして建坪は五萬餘坪だソウだが是等はイツまでも總督府の所管として遊ばして置くよりは、相當價格で民團へ拂下げたが良からう▲花山森林枯損木拂下人の田動某は佛蘭西留學中、今の寺內總督と昵懇であつたなどゝ、愚にも附ぬことを諸方へ言廻つて居るとの事だ

耶蘇信者の亂暴

▽他人の女房を撲る

大和町二丁目に山口大助と云ふ人あり長崎縣の人にして基督教信者なりとは自ら吹聴する處にして毎日曜の集會は一週も缺かした事なくアーメンの祈禱殊勝に捧げつゝある由なるが本職は質屋業にして高利貸を兼營し店員の岡田某を其衝に當らしめ貸した金を返さぬのは返さぬ方が悪いのなれば云ふ明瞭の理由の下に督促は嚴重にし夫でも不可なさや裁判所に訴へて强制執行するも度々ありとかなれどされど夫は元來稼業なればキリストも咎め玉ふまじ宗旨と稼業は別物と區別を立て、誰彼れの區別なしに貸しては取り立て取り立ては貸す程に財産は日増しに太り行くこそ芽出度けれ然るに基督教信者ならずも感心せぬ事を此大助さんが爲たと云ふ次第を聞くに茲に南山町三丁目にラムネ製造業山田太七なる人あり大助は實弟某が太七とラムネ取引關係あり其保證人に立ち居るより自然懇意の間柄なるが大助の妻りきが店員岡田某と醜關係ありとの風評盛んなるも御主人の大助一向平氣なるより友人神崎某此を頭痛に病んで大助に向ひ岡田を解雇せぬと君の爲めにならぬぞと夫とはなしに忠告せしも夫でも平氣で澄し込んで居るに神崎更らに躍起となり斯くては山口の不爲めなりと前記山田太七にシカ〜の次第なれば貴許よりも一つ大助君に忠告を與へられては如何僕等が話しても耳を傾けて呉れないから歴うか何分貴許から然るべく願ひたしと賴み居たるを太七の内縁の妻山口ヨキ（三）が傍に居りて之れを耳にし其後大助の隣家に至り何氣なく右の次第を物語りしこと誰れ噂するとなく大助の耳に入りしにクリスチャンでも人間の事とて赫となり十一月上旬店員の岡田を山田方に赴かしめお内儀さんにお願ひ致し度事あれば一寸自分宅まで御足勞下されたしとて同伴せしめ奧坐敷に案内するや否や高利貸の見本の如な顔をして貴様は俺の女房のりきと店員の岡田とが密通して居るなぞと近所近邊を言ひ觸らし歩行居る相だが不埒な奴なり何を證據に言ひ觸らすかと云ふや否拳を固めてヨキの面部を撲り飛ばし蹴るやら打つやらの大亂暴を働きしよりヨキはクリスチャンならねば左の頰も打つて頂戴と澄して居ず漸く其場を逃れ診斷書を添へ南部署へ告訴せしに直ちに違警罪として科料金一圓に即決せられたるのみにて一件記錄は檢事局に送られず至極穩便に落着せしを大助此も偏にエスキリストの守護し玉ふ所なりアーメン、とは少々不感心の樣なるが能く考へて見ると西洋では泥棒も人殺しも火放も親殺しも皆んな耶蘇信者なりと云へば日本人だけに此れなぞは未だ優しい方なり

「美妓居る金送れ」

▽色魔の電報詐欺

原籍廣島縣高田郡志屋村生當時仁川白石旅館滯在寄下清助（三二）は元仁川尾崎旅館の客引なりしが頗る的の色魔にて婦女を瀆すに妙を得たるこそ身を過失るの元となり種々不良ぬ事を爲したる果尾崎旅館を放逐され其後爲す事もなく所々徘徊し居り去十一月廿日頃太田より仁川歌舞伎座興行に來るべき浮れ節芝居の一行と瀛車中にて知合となりたるを幸ひに同一行中の客員となり役者と同じく白石旅館に宿泊し役者の衣類を借り着して敷島遊廓、敷島遊廓等へ登樓しては自ら太夫元なりと稱し駄法螺を吹き立て廿四日には敷島新地光月樓に登樓しよし子事尾形たけ（三九）を敵娼に遊興し其夜は綺麗薩張りと勘定を濟し男振りを示せしによし子は本統の太夫元と信じ優待したるにぞ腹に一物ある清助は越て廿六日再び登樓しよし子に向ひ今度芝居の方で少し買物が有るので金が入用から借して呉れと申込みしをよし子は太夫元さあるからには今度少しの用立を爲し置かば後日自分の爲めにならんと考へ即座に承諾し自分の金指環二箇、縮珍丸帶、小紋長襦袢其他女將の指環迄借り全部入質し金百餘圓を融通貸與したるに清助はシテヤッタリと長い舌をペロリと出して後は廓の道切り其の金は全部賭博に打負けたり夫れとは知らぬよし子は雁ケ音の便りもなきに身を悶ね居たりしが積善の家に餘慶ありとも云ふべきか同月三十日に至り京町邊の或る米屋の旦那に落籍されたることそ日出度き次第なるがさてコーなると幾きに清助に貸した女將の指環と衣類とが無くてはならぬ次第に自分の衣類は其の旦那が作り與へし物なれば之れ又無くては旦那に對し面目次第もないと早速白石旅館に清助を訪れ前記の物品返還を請求に及びたるに清助は柳に風と受流し一向取合はざるよりよし子は更に十圓を渡し指環と長襦袢だけ質受けして下さいと手渡したり清助は又もや此の十圓を以て賭博に打負け困じ果てた揚句一策を案じ出し知人なる忠清南道論山の料理店野見山定吉が酌婦入用との事を聞きたるより本月十日『ヒメオルカネオクレ』と打電し十五圓を詐取し尚『ヒチモツウクルカネオクレ』と打電し金十五圓を詐取し尚『リヨヒフツク』と打電して十圓を合計三回に四十圓を詐取したる事發覺し一昨日野見山より告訴され目下仁川署にて取調中

良人重ね背月影

▽暗き路行く淺間敷の人妻

物の音も冴る今日此頃或日の眞夜中記者が仁川宮町通りを通り拔けんとする時東京生そばと記せる軒燈の光りも已に細りて眠りを催せる氣なるをも憚り氣に同そばやの暖簾を押し分けて慌たゞしく息せきながら帶を抱ねて出で來りし年の頃は三十二三の一寸色の淺黑い目のパッチリした婦人を認めたので之れ必覺此の家の夫婦喧嘩ならんと記者は好奇心に驅られて窓から家中を覗き廻したが何の樣子もないから彼の婦人の後を尾行すると濱町の或る小さな長家に這入つて仕舞た表札は打てなかつたが○○某の妻である事は判明したが扨ても此の婦人が何故にそばやから帶をもメめず慌たゞしく立出で去たのであらうか之れが疑問であるから段々詮索すると右の婦人は税關の邊の大堺某と乙な交情で有るとの事にて同夜も膝じ合せてそばを喰ひながらヤッパリ主のソバが好いヨー私し全くアナタのソバが好きですよと他愛もない洒落交りに甘い裕を滴せし次第なりさかなるが不善事だ止さぬと素破拔くぞ

社告

稿の御寄贈に候其玉稿の

鳥兎匆々急極月と相成本紙新年號準備の期も愈相近かづき申候就て本紙が此際愛讀各位に御願致度は本紙新年號に掲載すべき各位玉稿の論文たると將た美文たると詩、歌、俳句情歌端歌たるとは各位の御隨意にして本紙は硬軟何れをも歡迎仕候

新年畫附錄

本紙新年畫附錄は本紙が特に邦畫の大家川端玉章翁に依囑して成りたる勅題松上鶴の祝畫にして其高尙優美なるは贅言を要せずと確信候

十二月　京城新報社

抜手の官金横領

▽國民の膏血を亂費す

大分縣大分市大分南新地當時咸鏡南道永興郡永興邑内居住朝鮮總督府技手工藤金平（三〇）佐賀縣小城郡小城町當時同所居住總督府内務部地方局土木課雇員伊藤富藏（三四）の二名が共謀して官私文書僞造行使詐欺取財並に横領罪控訴事件京城控訴院刑事部法廷に於て鈴木裁判長の係り西内檢事立會の下に公判開廷せられたるが右犯罪の大要は金平は明治四十三年七月より舊韓國内部土木局技手を拜命同八月二十九日より總督府技手として道路開設工事擔當主任として富藏は補助として何れも事務に從事中工事遂行に際し嘗て人夫賃金其の他工事に直接必要なる費用金として舊韓國政府又は朝鮮總督府より委託されたる先渡金を相當の手續を經ずして流用支出し其責任を免れんが爲め四十三年七月下旬より同十月迄に於て數回に渉り嘗て使用せる人夫名其の他に虛僞の記入をなし人夫賃金請求書若しくは工事材料請求書を僞造行使し以て該金を支拂ひたる如く總督府に報告し以て官金一千五百餘圓を横領若しくは詐欺したる事發覺したる爲め檢擧せられ第一審咸興地方裁判所元山支部に於て懲役一年六月に處せられしを不服として控訴したるものにて被告辯護人として辯護士木尾虎之助小川勝平の兩氏出廷せり被告等は何れも保釋中なれば身柄の拘束なくして出廷取調を受けたり

不用意な銃獵家

▽下村榮太郎の不注意

太平町二丁目十八番戸銀冶職吉賀久平（三二）は二十日午後十時頃京城新橋通り一番戸下村榮太郎なる者より獵銃の引金修理を依賴され修理中獵銃に彈丸填充ありたるより暴發して榮太郎の使者吉永愛吉（三五）の右手を負傷せしめたるも過失傷害にて被害者より告訴の意思なきより説諭放免

日土兩國人の葛藤

▽日人の讓歩か附加か

土其古人ボチスコクレスは本年九月より一日金五十錢にて南大門通り櫻家旅館に宿泊し本月六日宿料金二十三圓餘を支拂はず荷物を置きたる儘仁川に至りて十一日午後一時頃櫻家旅館に歸り宿料が高い安いと悶着を起し警察に持出し結局十八圓餘を支拂ふ事に解決して事濟みたり

●官煙の供給不足　日本官製煙草滿州朝鮮一手販賣特許の特權を有する東亞煙草株式會社は創業五年を送ると共に益々其製品供給の不足を感じ本年夏頃より東大門内の朝鮮製造所の增築に着手せしが本月中旬落成し直に製造を開始せしも尙供給不足の感ありと云ふ其規模宏大なる設備の整頓せる眞に朝鮮第一の工業會社たる名に恥ぢず常に需要の供給に超過するは加藤製造所長並に佐々木總販賣所長以下の努力に因るとの世評は盡し肯綮に當れる言と云ふを得べし

●北海道捕はる　嚢に北海道餅路警察署長より南部警察署長に對し通稱北海道の仇名ある掏摸常習犯前科十犯伊勢重兵衞（三〇）が京城に入り込みたる形跡あり注意を乞ふ旨通知ありたれば注意中の所二十二日午前十時明治町一丁目雜貨商谷中爾松方店員辻岡直（十九）が此者は店頭にて手袋を竊取せんとしたるを認め捕へて連れ來りし所へ出たるより取調しに本月十五日入京せし掏摸常習犯伊勢重兵衞なりし事判明せしより目下嚴重取調中

花柳界歳末觀

前文は略致しまして次は菊家

文之助君を願ひます

▲文之助曰　突然のお訪で困りました實は今晩（二十日）五時から清華亭さんの宴會に行くので準備中ですから……エ、お座敷は中券組合の掬翠さん花月さん清華さんなぞの方が多いので明晩も花月さんから頂いて居ますの、素晴しい景氣だつて仰云る？何が貴下、繪に書くと馬の糞でも奇麗に見へますよ、歳末の感と申して……左樣ですね私が掬翠さんから分離したのが昨年の九月でしたが今年の暮よりは心配が少かつた如に記憶して居ます、昨年は妹の菊枝の外に三人同居して居ましたが今年は居る人も違ひますが別に一家を持つて居りますから内輪斗りですが交際費は昨年末よりは二倍費りますよお蔭樣と御贔負の餘光で線香代は全部今迄の借金拂ひに廻して居ます當分は財政困難ですが困難でも契約は履行して居ます、ホイ話が躓れました、本年の花柳界の景氣ですか例年に比べたら話にならん不景氣、併し私所は御贔負に依りまして不景氣知らず、アラ法螺おやなくつてよ、昨年秋貴下所の新聞に『花柳界の革命』と云つて改革意見をお載せになつて以來京城券番が成立し此に屬する料理屋も出來て相當に行つて居ますが兎に角總督閣下もモウ少々戒嚴令をお寬め下さつて寬嚴令位の所で我慢下さると思ひますよ、お膝下の東京にだつてねへ貴下。

●遺失物拾得　舊龍山元町三丁目江守清次郎方店員小野三郎は二十二日午前十一時同地印刷局官舍高木德太郎方より米代金二十圓を受領し歸途遺失したるを元町一丁目五番戸武田兼松が拾得し直ちに龍山署に屆出でたるにより同署にては早速小野を呼出し金子を引渡されしより同人は武田に金二圓を贈與せり

●鋼子の俠氣鮮人を動かす　河豚の騷ぎを拾ひ食せし往十里住農貴得一家の窮乏を見兼ねて掬翠樓の藝妓鋼子が白米一斗五升を惠贈せしは既報の如くなるが此記事に感奮したる左の人々は二十一日纛島分署の手を經て左の如く惠贈したりと ▲一圓と白米一升五合（往十里陽地洞長權羅鉉）▲金一圓（同所私立旺新學校職員）▲白米一升五合（同所張七星）

●火の用心をせよ　二十一日午後十時龍山東門外契十四統十戸嚴允根（三三）方温突より失火したるも大事に至らずして直ちに鎭火したり時節柄火の元は幾重にて用心ありたきものなり

平民文庫

▲昨日本欄に於て意見申述べたる『江戸ッ見會』は『東京府人會』と云ふべきを語呂の好い所から『江戸ッ見會』としたのらしい▲茲でヨメ＊のは三太、勝利、政子、江戸奴等の背後に有力なる〳〵、然り有力にして改心したる或人の贔んで居る事だ、兎に角花柳界の爲めに萬歳々々▲萬歳は萬歳だが此『江戸ッ見會』は衆議院の議場同樣實質は『日本人會』となる道理だ▲東京府て云やア八丈島も大島も葛西も練馬も小笠原島も鳥島もピッカースアイランド（南鳥島）も又東京府であるから其住民も『又江戸ッ見』か、オモロイ〳〵▲序を以て江戸ッ見の意味を申上げよう▲今日で申す江戸ッ見とは江戸で生れたと云ふことは條件の一ではあるが更らに『ヨシッ引受けた』の一言を全ふする爲めには白刄首に臨むも動ぜず水火ど雖も辭せず千萬人ど雖ども行かんの氣慨を有し光風霽月一點邪心なき人に冠らすべき一種の敬語となつて居るのだ▲が左樣までゞなくともセメテはクサヤの乾魚のお茶漬を賞味する位の江戸趣味を有する人だけに止めたいのである▲當面の發起人たる諸君は無論客つれた根性はお持合せも無からうが會費さへお持ちになればなぞとチャチな考へを出さずキビ〳〵した所をお見せ下さいよ（小僧）▲小僧君に問ふ君は本町二丁目だと云はれるが懷かしい僕も本町二丁目だ（吉本生）▲次郎公のイナリの味を思ひ出しませんか（小僧）▲市橋と云ふ質屋の主人云々はお預り（係）▲鮭の鈴子は京城家庭間に大流行だが一寸輕便だからでしようね（下女）▲鮭は京城でも大に巾を利かし出したが鱈は餘り賞用せられぬ樣ですね（凹坊）▲の樣です、此と云ふ味もないものですが一寸乙なものですよね（小僧）▲石井竹馬君に、何卒御送稿下さるべく願上候（代理）